

ひとりと

豚飼人

食に対する安心・安全が、牛乳での食中毒問題、さらにBSEと鳥インフルエンザの発生以降、急激にクローズアップされてきた。SPF豚は、この安心・安全に対する対策を早くから取り組み実行してきたので、現在その評価は高いものとなっている。

各ピラミッドではSPF豚農場としての認定を得るために努力し、大変な時間と経費を費やしているはずである。しかし、その一方で、近年のCM農場の大型化と、AD、PRRS、PMWS等の浸潤によって疾病がより複雑になり、各農場は衛生対策に大変苦慮している現実もある。このような農場を取り巻く環境の変化の中で、その認定を取得するための拡大解釈が始まっていないか実に心配である。SPF化とは、そもそも農場での高い生産性維持、高品質な豚肉生産および豚群の健康維持を目的としている。農場内に疾病のないことが第一義的な条件ではなく、経済的に大きなロスが出ないように農場内をいかにコントロールするかが重要なはずである。

各ピラミッド内で疾病のモニタリングとヘルスチェックが行われるが、評価は正しいだろうか。評価が甘くなっていないだろうか。この数ヶ月、建築関係での虚偽の申請によるマンション建設や鳥インフルエンザでの農場側による検査妨害が発覚し、大きな社会問題となった。いずれも個人ないしは数人の自己中心的な考えが根底にあるように見える。より集約的な畜産が求められ、諸々のリスクと隣り合わせの経営を強いられている現在、養豚もひとつの産業としてのコンプライアンスが必要である。自分だけ良ければではなく、畜産業全体も考える必要がある。

他のピラミッドの担当者や中立の第三者が、すべての農場でヘルスチェックを中心とした認定作業を行うことは非現実的だが、GGP農場だけならば現状でも決して難しくはないであろう。認定制度の透明化を図ることは、今まで培ってきたSPF豚の安心・安全に対するイメージをより一層消費者にアピールすることにつながるはずである。